

5 / 1 6
(土)

子どもの 「今」と「未来」の いのちの輝き

企画講師

LIFE DEVELOPMENT
CENTER
渡邊醫院 副院長

渡邊 久子
先生

日時 2026年5月16日 (土)
10時30分～17時05分

費用 8,500円 (税込)

定員 80名

会場 明治安田こころの健康財団 講義室
住所：東京都豊島区高田3-19-10
JR山手線、西武新宿線、
東京メトロ東西線「高田馬場駅」より
徒歩約7分

申込 財団HPより申込み受付
期限：5月14日 (木) まで

ベーシック講座2



◆当財団は「臨床心理士」資格取得者の研修機会として
(公財)日本臨床心理士資格認定協会より「短期型研修会(ワークショップ)」の承認を
受けております。 <承認期間:2022年7月2日～2027年7月1日 承認番号:20210392>

子どもの「今」と「未来」のいのちの輝き ~自分らしく生きる力を守る大人の責任~

「子どもの心には人格という龍が棲む」。この言葉は東日本大震災後に来日したブータンのワンチュク国王が、被災地の小学生に贈った言葉です。子どもたちの生まれもつ素直さ、優しさや頑張り、被災により押しつぶされぬよう、あなたたちは被災を生きぬき龍のような強い人になると励ましたのです。それから15年たつ今、被災地の子どもはすでに立派な若者です。地域の大人の強い絆による支えあいを見て育ち、自然への畏敬、いのちの尊さや、粘り強く地道に生きる姿勢を身につけています。

その一方日本では今、ともすれば大人が子どものうわべをとらえて子どもの中味をみようとしないう風潮が、育児、教育、治療などのいたるところにあふれています。「木を見て森を見ず」の大人の狭さや浅さに、多くの子どもは人知れず傷ついています。世界に類をみない日本の小中学生の自殺の多さ、150万人を超えるひきこもりやWHO調査に示された日本の子どもの「不幸福感」の高さは、美しくも厳しい日本列島の自然を生きのびる中で培われてきた日本人のお互いさま、おかげさまの支えあいの絆が喪われてきたことを示唆しています。今こそ私たち大人は、ふれあい、響きあい、支えあいながら生きのび進化してきた人類の原点にたちもどり、ヒト本来のやさしさをとりもどし子どもたちのこころに光を灯しなおしたいと考えます。

本講座は、私たちが地球の生態系の多様ないのちのひとつとして生きることを見つめる3人の講師が登場します。渡邊久子は児童精神科医として、半世紀にわたり逆境を生きぬく親子から学んだ自分らしく生きる力について日本の精神風土と最新の脳科学に照らし合わせて講義します。中村道也は日本の高度経済成長期以降、荒廃した自然環境とそこに置かれた子供達の心身の健康を考え「森の学校」を開設。併せて多様な生命の営みを育む「森の再生」などに取り組んできた営みを講義します。公文健太郎は写真家として自分のこれまでのこと、幼少時代、自由学園でのこと、ネパールとの出会い、震災以降は日本の一次産業を始めとした地方を回り、環境、出会う人、写真を撮ること、全てに心地よさによって育まれるものがあることを感じ、そこに心の健康に通じるものを感じていることを論じます。

3人の講師は異なる専門分野でありながら、ヒトが本来もつ共に生きるやさしさの力を掘り下げる点で共通します。講義を通じて受講者が、より澄んだこころで、のびやかに子どものいのちの躍動に響きあえるようになることを目指します。講義の最後には受講者のみなさんとのオープンなディスカッションの時間を設けます。

【企画講師 渡邊 久子】

	時間	テーマ/講師
プログラム	10:30~11:45	子どもの命の躍動:自分らしく生きぬく力を育む 渡邊 久子 (LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡邊醫院 副院長)
	11:45~12:45	休憩
	12:45~14:15	子どもが主体的につかむ命のつながり 中村 道也 (NPO法人丹沢自然保護協会 理事長)
	14:25~15:40	心地よさに導かれ 公文 健太郎 (写真家)
	15:50~17:05	本講座に参加し共に過ごす中からわきあがる思いや質問 (質疑応答+討論) 渡邊 久子、中村 道也、公文 健太郎

<注意事項>

- ・ 時間割・テーマ等が変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

【主催】公益財団法人 明治安田こころの健康財団

【照会先】 〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10 E-mail: moushikomi@my-kokoro.jp

TEL: 03-3986-7021 FAX: 03-3590-7705